

「令和6年度 第3回境港市みんなでまちづくり推進会議」会議録

【日時】令和6年7月30日（水）18:30～20:45

【場所】境港市役所 第1会議室

【出席者】松本 幸永（会長）、三原 真由美（副会長）、安原 真弓、遠藤 緑、
松田 真二、池淵 匠、吉田 明広、足立 勲、宮本 剛志（9名・敬称略）

【欠席者】丸山 誉覚、河岡 雅、舛岡 彩子（3名・敬称略）

【傍聴者】なし

【事務局】小川 博史（総合政策課長）

立花 順平（総合政策課長補佐兼政策企画係長）

安達 麻優子（総合政策課政策企画係主事）

【アドバイザー】毎熊浩一（島根大学法文学部教授）

- 【日程】
- 1 開会
 - 2 境港市市民活動推進補助金審査
(1)松ヶ枝町商店街
(2)境港サーフレスキューチーム
 - 3 第9期取組テーマについての協議
 - 4 その他
 - 5 閉会

1 開会

〔会長〕

皆さん、こんばんは。お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。

これより令和6年第3回目のみんなでまちづくり推進会議を開催します。

丸山委員、河岡委員、舛岡委員より欠席の連絡をいただいています。

本日は、まず市民活動推進補助金の審査を行い、そのあと19時頃から、毎熊アドバイザーをお招きし、今期の取組テーマについての協議を行います。

2 境港市市民活動推進補助金審査

〔会長〕

それでは早速、市民活動推進補助金の審査に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

〔事務局〕

今回の7月募集ですが、一般事業に3団体の申請がありました。このうち、2団体は継続事業でヒアリング審査がないため、本日の会議で審査を行います。残り1団体については、先日ご案内したとおり8月7日にプレゼンありの審査会を開催いたします。審査員の皆様には、事前に書類審査をしていただいております。期間が短い中、ご協力いただきあ

りがとうございました。

事前審査による申請団体の評価点は、お手元の資料のとおりとなりましたので、ご確認ください。各事業とも 30 点満点、6 割の 18 点が採択の基準点です。

審査表の審査基準を基に、申請書のみでの審査をしていただきましたので、このあとの審議で、質問に対する申請団体からの回答や意見交換を踏まえて、得点修正があればしていただき、採択・不採択の決定を行っていただきたいと思います。得点の修正については、机上にお配りしている審査表を手書きで修正いただき、全団体の意見交換の後に事務局が回収しますのでよろしくお願いいたします。

説明は以上ですが、何かご質問等ございますでしょうか。

無いようでしたら、審査内容について協議したいと思います。

〈審議結果〉

(1) 松ヶ枝町商店街・・・採択

(2) 境港サーフレスキューチーム・・・採択

3 第9期取組テーマについての協議

[会長]

それでは早速、協議を進めていきたいと思います。はじめに、先日実施した第9期の取組テーマ決定のためのアンケートについて、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

(説明の後) 本日の協議を通して、テーマを1つに決定、あるいはいくつかに絞り込むところまで進めていきたいと思っております。以上です。

[会長]

続いて、毎熊先生に先ほどのアンケート結果などに対するご意見やご助言をいただきたいと思います。それでは、毎熊先生、よろしくお願いいたします。

[毎熊アドバイザー]

では、座って失礼いたします。

先ほど皆さんに自己紹介いただいて、僕自身も簡単に自己紹介したいと思いますが、名簿の下の方にいくらか僕の審議会を書きいただいておりますが、今なお残っているのはここだけです。他は全部任期が終わっていたり、或いは役所からもう要らんっていう、首切られたりしたところばかりでして、最近はいろいろと役所とつき合いがあって、島根県だったり、松江市だったりとかあるんですけども、あんまり大きな計画を作ったりみたいなものはなくてですね、最近自分ごと化会議っていうのに僕自身は、ここでも幾らか話題提供させてもらったことがあったかと思いますが、これも5年以上ぐらい関わって、そこは民間の団体ですけど、そこに随分と力を入れています。あわせて去年、しまね子ども支援プロジェクトというNPOを立ち上げまして、簡単に言うとフードバンクなんですけ

ど、常設型フードバンクというやつで、シングルのご家庭の方に、いつでもご利用くださいということでそういうフードバンクの活動をして、子供の貧困とかに最近は取り組んでいるというようなところですよ。

アンケートについてのコメントなんですけど、何人かの方はこれまで何回かご一緒させてもらって、毎期の大体この頃に僕が来て、テーマ決めしましょうみたいな話をしたときに、だいたい手こずるんですよ。何が手こずるかっていうと、おそらくとりわけ初めてここにこられた方は、このみんなでまちづくり推進会議のイメージがちょっとずれてる、ずれたら悪いって意味じゃなくて、もともと誤解を招きやすいタイトルになっているんですよ。何が誤解を招きやすいかっていうと、みんなでまちづくりって言ったときの、2つの要素があって、「みんなで」ということと、「まちづくり」っていう2つ入っているわけですよ。どちらかというとい皆さん関心を持たれているのは「まちづくり」の方で、「まちづくり」ってというのは色々なテーマがある話で、この間の第8期の最後のワークショップ、僕はちょっと参加できなかったんですけど、あそこで出たテーマなんかも、空き家問題だったり、交通の問題だったり、買い物難民の問題だったり、いわゆる「まちづくり」って色々なテーマがあるんですよ。それは大変どれも大事な問題なんですけど、その問題って大体、他の担当課があって、その担当課が取り組んでいて、場合によってはその担当課に市民が関わったような委員会があったりするんですけど、「まちづくり」は、普通じゃ関心を持たれていることが多い。この委員会はどちらかという「みんなで」の方に力点があって、みんながまちづくりに関わっていくためには、どのようにしていったらいいか、どんな仕掛けが必要か、どんな制度だったらいいのかというのをどちらかという、力点を置いて、議論したい委員会なんです。そこが明確には分けづらいがために、毎回ここで手こずるっていうところですよ。どちらかという「みんなで」に力点を置いたテーマにしていきたいなど、僕は思っています。僕っていうか、この委員会の基となる条例とか見るとそのようになっているということになります。

1つ1つちょっと簡単に見ていくと、これは少なくとも多数決では決まらなっていくような、混沌としたような結果になっていますが、先ほどの話でいうと⑤とかは、どちらかという「まちづくり」に力点があるようなことなんです。当初、事務局さんともアンケートのとり方で意見交換をさせてもらって、随分丁寧に作っていただいたんですけど、それでもやっぱりちょっと⑤が、どちらかという、「まちづくり」に力点を置いたような問いかけになっていたという感じがします。真正面からいくと、①とか②がこの委員会の真正面のテーマになってくるだろうということなんです。それでも、話し合う中で、「まちづくり」に力点を置いたようなテーマになることもあるかもしれないので、そこは話し合っただけだと思います。ただ僕自身の考えになるんですけど、問2の選んだ理由のところ、①の理由とか、②の理由とかに書いてあるのは、まさしく、この委員会で話し合った方がいいなっていう感じのことがここに書かれていると思います。結局この条例で、或いはこの会議で提案して、その結果どういう効果があったのかというのは当たり前になるところですよ。それを検証しようじゃないかとか。条例って本当にもう随分前にできたので、今でも十分かとか、そういう風な見直しが必要だというご意見とか。補助金も、この条例を実現、みんなでまちづくりしていくための1つの大きなツールですので、その補助金の仕組みが本当に機能しているかどうかというのを考えていこ

うじゃないかということも、テーマとしては大いにあり得ると思います。

③はちょっと注意が必要かなと思うんですけど、③の理由ですね、第8期をもう少し深めたい、これ自体は大変いいと思うんですけど、先ほど申し上げたことについて、ワークショップで出された案が、実践できているかどうかという話ですけど、その案が空き家問題、交通問題、買い物難民の問題みたいなことと言うと、先ほど言ったような「まちづくり」に焦点が当たっていくような感じなので、僕自身はちょっと違うなって感じはしています。一方で、第8期のテーマは、あんまりこうまちづくりとかに肩肘張らずに、自分の好きなこととか得意なことを入口にして、まちのために何か繋がっていくようなことができたらいいなという仕掛けだったわけですよ。それを実験的にこないだやってみた。今回、それを受けて、もう少し仕組みとして整備していこうじゃないかという方向での深掘りというのはありかなというふうには感じました。

④、⑤の理由というのは先ほどから繰り返し申し上げる通り、1つ1つはとても大事な問題なんですけど、おそらく他の課や他の委員会とかが、普段やっておられることじゃないかなという気がしています。そのため、扱うにしても、それを題材としつつも、「みんなで」を考えるような引っ張り方をする必要はあるのかなという感じで思っているところです。問3も同じようなコメントになるかと思います。

[会長]

それでは、委員の方から、何かご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

[遠藤委員]

2点ありまして、1つは、ずっとやらせてもらっている中で、補助金の審査と、このテーマを決めてやるっていうところが、ちょっと何か離れてきているなと思っていて、さっき毎熊先生が言ってくださった通り、「まちづくり」とかって他のところでやってないのかなって思ったんですね。やっぱり結構「まちづくり」に皆さん、いろんな興味・関心があるので、どんどん広がっていくのは良いことだと思うんですけど、「みんなで」というところに近づけていくのが良いんじゃないかなと思いました。

もう1つは、最近自分でちょっと困っていたのが、補助金の審査をする時に、市民がどれだけ参加できるかみたいなものを問うところがあるんですけど、その点数が個人的な意見で低くなってしまふところが多くて、それが補助金の狙いみたいなのが、もしかしたらあまり申請者に伝わっていないのかなとか、なんか多分補助金っていうシステムがいろんなところに広がって、いろんな人が応募してくれるからこそ、言葉は悪いんですけど、安易にというか、その本当に境港のことなのかなっていうのが、最近審査する時に困っているところがあって、「みんなで」というところに、わかりやすい説明を、補助金や条例のことも考えながら、というのができると、この会の意義がもっと高まるんじゃないかなという風に思いました。

[毎熊アドバイザー]

補助金のことが中身まであまり理解できてないですが、多分他の課でも審査したりする

補助金を持っておられることがありますよね。それでもここにあるということは、おそらく、さっきの審査基準の中で、市民がどれだけ参加しているか、そういうのを重視するのは多分この特徴だと思うんですよね。極端に言えば、他の課はその他の目的を達成するためだったら、市民が別に参加しなくても専門家だけで挙げてもらえばいい話なので、こっちは市民参加というのを重視している。その観点から本当に今の補助金の審査とその結果がどうなっているかというのをもう1回見直してみるというのはね、大変良い機会になるんじゃないかと思います。

〔事務局〕

若干補足させていただくと、補助金については実際に今年度もいろいろとご意見をこちらにいただんですけども、他の補助金は、例えば空き家を壊すんだったら補助金出しますとかいう形で、こういうのをするときには補助しますということで、やることを先に行政側である程度決めてしまって、行政がやって欲しいことを実現するツールとしてお金を出すというのが、簡単に言うと一般的な補助金です。

逆にこの補助金については、何をやるということを委ねている、市民活動という広いものを盛り立てたいという理念の中でということがあって、ただそれが確かに事務局としても、オフィシャルな疑義っていうのは、他の委員の方からも出てきているということがあったので、今回のアンケートで1つの項目に入れさせていただいたのもそういったところでございます。

〔足立委員〕

私も最近ずっと疑問に思うところがありまして、実際にその紙面の上だけで審査するので、我々は現場に行っていないんですよね。例えば、極端な話、この松ヶ枝町の竹灯ろうまつりなんか、私からしたら、松ヶ枝町の10人と福定町数人とかそれだけの人数で終わったのかなっていうような気もするし、もうちょっと人がいっぱい集まるんじゃないかなと思います。私たちが実際行って見てないから、その規模っていうのはなかなか把握できないですよね。だから、今後、時間があれば行って見て、実際に自分が採点したのと、現地の催し物とあっているかどうかという確認する必要もあるんじゃないかと思うし、少数意見で、例えば15点以下の方が1人おられてもその人の意見もやっぱり大事じゃなかった気がするんですよ。だからそういう人たちの意見をもうちょっと取り上げて、はっきりと聞いていただくという必要もあるんじゃないかなっていう気はします。

〔每熊アドバイザー〕

今おっしゃった現地に行くという話には、多分2段階あると思うんですよね。今おっしゃったのは、採択された後、ちゃんとやってるかどうかのチェックですね。それも大事だと思うし、もう1つあり得るのは、現地かどうかともかく今の書面だけの審査じゃなくて、審査の段階でもう少し実りのあるような、よくあるのは来てもらってプレゼンしてもらおうとか、そういうことも検討の余地があるのかなとお話を聞いてて思いました。ご負担はかけるんですけど、先ほどおっしゃった安易な申請は少し減らせるかもしれません。

〔事務局〕

一応、初回のはじめての方はちゃんとプレゼンをしていただきますが、それで毎回やっていただくと、相手も大変だし、審査の方もやはり時間がかかるということで見直しをして、2回目以降の方は書面で良いということでやっています。第7期のときに委員さんの方から、審査にどうしても時間がかかってしまって、こういった会議ができないというようなご意見もいただき、この時に改正をして、新規の申請については対面でプレゼンをしていただく、ただ、緑化事業や継続事業の審査は書面でというような形を今とらせていただいています。多分、委員の皆さんもちょっとその辺が形骸化してしまっているところがあるのかなというふうに感じております。

〔每熊アドバイザー〕

今、補助金っておいくらでしたっけ。

〔事務局〕

一般事業の1回目だと上限が30万円で、補助対象としては3分の2、2回目からは2分の1で上限が20万円、緑化事業については上限6万円です。

〔每熊アドバイザー〕

いくらかこういう補助金の審査に関わったことがあるんですけど、おっしゃったような感じの補助金っていうのは書面審査が多いですよ。例えば、NPOと行政の協働を進めようとか、その企画を持ってくれば30万用意するので、行政もちゃんと何かコメントと一緒に何かをするようなものであれば、プレゼンしてっていうことが多いと思います。こっちがもう少しテーマを決めて協働を推進するとか、市民参加に対して、みんなでまちづくりを本当に進めるための心に対してお金を出しますっていう仕組みにすると多分今の補助金申請の団体は減って、何かもう少し大きいのが出てくるという可能性があると思うんですよね。そういう意味では、審査のやり方だけでなく、方向を少し転換していく、そういうことも可能なんですよね。

〔事務局〕

そうですね。そういう意味では補助金の要綱については、比較的皆様の了解さえ取れば変えやすいです。もし仮に①の条例になった場合には、皆さんの意見で変えた先に、ここだけでは決められずいわゆる議会の方に諮って検討が必要となりますし、市長とか市だけでは勝手にはつくれないのが条例ですので、そういう意味では難易度でいうと、色々と手続き的に大変にはなって参ります。ただ、これも最初に作らせていただいたのが平成19年になりまして、例えば、この中にパブリックコメントをしましょうとか色々な市民参加の方の仕組みも入れているんですが、パブリックコメントにしても、意見が0で終わりましたみたいなものも現にありまして、本当にこれが市民参加に繋がっているのかという意味では、時期的にも18年という期間が経つということによって、1度点検してみるのも1つのタイミングかなということで、テーマの1つに候補として挙げさせていただいたというところでございます。

〔吉田委員〕

例えばそれこそ、今日のレスキューさんのですかね。あれが何か市民参加という意味では多分きっちりしたら外れてしまうかもしれないんですけど、じゃあ補助金を出さずにその活動を支える何かがあるのかって言われると、下手にこの団体ともう関係なくなるといってだけで切り捨てていいものかっていうところも、ずっと長年やられてて実績のあるところを、補助金を出さずにやめさせて、危険なことをさせるのかっていうところもありますのでその辺も難しいような気はします。

〔每熊アドバイザー〕

そこは個人的にはですね、とても大事な活動だと思うので、まずは多分その団体が自立することだと思うんだけど、なかなか難しいってなったら、町にとって大事だとすれば行政としてちゃんと補助しないとなんですよ。それをここでやんなきゃいけないかっていうところの問題なんですよ。他の課でちゃんとそれはしてもらってということはあるかなと思いますよね。

〔事務局〕

この補助金を最初に作ったという取っかかりというのは、そういう意味ではまだ実績もないけど市民活動をやりたいっていう思いがある人が、ちょっと申し込んでやってみるっていうのから始まったものだったので、作ったときに想定したものと若干違うというのは皆さんが言われている意見のとおりありますので、もし見直すとしたら新規の応援をどうするかというのと、逆に長年続いている方についてはこのまま続けるのか、というのは当然ご意見をいただく部分としては課題にはなるかなと思います。

〔每熊アドバイザー〕

今日の資料見るとやっぱり大分こうなんかリピーターさんが多いですね。今おっしゃったような1つ1つの活動の大事さはさておいて、この委員会としてずっと10回も20回も補助金を出しているのが、本当に趣旨としていいかっていう議論はやっぱり必要な気がします。

〔松田委員〕

リピーターという話が私も引っかかかっていまして、やっぱり審査をしていて前と同じ団体さん多いなっていう印象は確かにありました。そういった中で、今まで申請したことがない団体さんから色々と申請が出てくるんですが、これが条例を作った時の当初の狙いなんだらうなと思いました。答えはありませんが、そういう意味で、これだったら申請してみようかなと色んな人が思えるような要綱とかにできたらいいなと思いました。

〔每熊アドバイザー〕

この補助金の周知ってどんな感じでされているんですか？

〔事務局〕

市報の方に募集の都度、年に4回時期がありますので、最低4回は市報に出させていただくのと、ホームページとかでも当然、周知させていただいていますが、いわゆる、アナログ的な方法がまだ多いもので、先ほどお話に出たような新規の方にどこまで伝わっているのかというのも課題です。条例などの計画についても、いまだに公民館に置いたり、市報に載せたりしていて、若い方が見るのかなども含めて、今回のテーマ決めの候補の中で、確かにちょっと時代にあわせて変えないといけないなというのがあります。

〔松田委員〕

周知の仕方もそうなんですけど、私6期から参加させてもらって、それまでの私を紹介された方がおられるんですけど、その方にお前も補助金の申請をしてみると、たぶん通るからみたいな感じで、そんな補助金があるんだなっていうのをそのときに初めて知ったんです。市報にも書いてあるんですけど、多分それ見ただけでは申請しないだろうなっていう印象はあって、何かハードルが高いのか低いのかよく分からないところがあるので、そういう人がもし多いのであれば、何かやり方があるのかなと思いました。

〔毎熊アドバイザー〕

そういう市民活動とか研究とかをしていると、教科書的に言うと、すばらしい矜持だと思うんですよ。自分たちでやる、市民活動団体だから市民でやると、補助金なんかいらないうところ、理想と言ったらあれですけど、本来あるべき姿だと思います。でもさっきおっしゃったように、ちょっとお金があればとっても大事なことができるのっていう活動がやっぱりあるんで、それはそれで遠慮せず補助金をもらえたらいいと思うんですけど、よくあるのは補助金を当てにされるようになってしまって、補助金なくなったらつぶれたみたいな、それはちょっと危険なんですよ。なので、何かいらなにかぐらいでやっておられる方が、実は長く続くということはあるかもしれないです。やっぱりすぐ補助金っていう人がいるんですよ。いいことではないかもしれないけど、遠慮しすぎる必要はないという難しいところですね。

〔吉田委員〕

8月にちょっとイベントをするんですけど、そこで市の方にちょっと共催してもらえませんかと言ったら、補助金があるからそれでお金をもらってやってくれみたいな感じの話になって。要はお金じゃなくて一緒にやって欲しくて言ったんですけど、上手くかみ合わず、その8月のイベントは結局申請しませんでした。その辺も難しいところですよ。

〔毎熊アドバイザー〕

教科書的なことを言うんですけど、みんなでまちづくりって言ったときに、協働を進めましょうみたいなことが書いてあります。その協働の手法にも色々あって、補助金のお金を出して支援するっていうのも1つだし、おっしゃったように共催するとかで名前を貸すとかいうのも1つの支援だったり、協働だったりするんですよ。そういう意味では補助金だけの話じゃなくて、この問1で言うと①の話に多分関わって、この条例作って本当に

そうやってちゃんと進んでいるのか。今おっしゃったケースが本当に共催すべき案件かどうか僕にはわからないんですけど、でも市役所がちゃんと検討してやっているかどうかというのは大事なポイントですよ。こういう条例があるんだっていう一番はそういう視点じゃないかと思いますね。

〔足立委員〕

今まで、不採択になった団体はありますか。

〔吉田委員〕

第7期ごろに、原発関連の事業で不採択になったことがありましたね。

〔足立委員〕

費用を削るわけでは全くありませんけども、例えば、小学校の花いっぱい運動、どことは言いませんけど、種から育てている学校と、高い苗を買ってやっている学校といろいろあるんですね。だからそこまで厳密に審査する必要があるかどうかというのは、皆様のご意見をちょっとお尋ねしたいです。市の費用を削るっていうわけではないんですけど、やっぱりある学校では、きちんと種から蒔いて子どもたちに水やりさせるところも中にはあると思います。だから、端的に言えば、種から蒔いてやったほうが安上がりになるし、負担金も通年で少なくなるっていう考え方も、なきにしもあらずですから、その辺が今後の審査の中でどういう具合でやっていくかというところだと思います。

もう1点、これも皆様のご意見を聞きたいんですけど、花いっぱい運動は毎年、卒業式や入学式に合わせてやっていますよね。他のイベントで、毎年やる必要が本当にあるかどうかというのをやっぱり考えてみた方がいい気がします。

〔吉田委員〕

補助金を出してまでっていうところはわからないですけど、イベントに関しては、全部やったら良いイベントばかりだと思います。

〔毎熊アドバイザー〕

会長さんちょっとご提案ですけど、今補助金の話が随分盛り上がっていますが、もし補助金がテーマになればこういった議論を後程やっていくと思うんですよ。ただ一旦ちょっと補助金を置いて、他の可能性のあるテーマを、ちょっとご意見出してもらったらいかなと思います。

〔会長〕

そうですね。③のテーマ案なんかは、考え方によっては「みんな」になるのかなと思いますね。ただあまり広げすぎると、難しくなりますかね。

〔吉田委員〕

1番2番は本当にすごいハードルが高いと思うので、楽するような言い方なんですけど、

やっぱり実現可能でいうと3番とかの方がやりやすいのかなっていう気はします。
どういうふうにするかは別として、条例を変えるとか内容の点検・見直しとか、やりがい
はあるかもしれませんが、なかなか難しい気はします。

〔遠藤委員〕

最初3番にしていたんですけど、それは何か単純にこの提言したこととかがどうなっ
ているのかなと思って、せっかく時間をかけてやっても、やっぱり期間が終わるとそこ
で終わっちゃいます。新しい方々が入ってきてくださるので、それも良いかなと思うん
ですけど、このまちづくり条例の概念図とかもせっかくあるんですけど、この会議に出たこ
ととかで何かこれが達成できていることはあるのだろうかとか、それに沿った活動をして
いたところがあったのかとか、何期か前だったら、その定義を本当に利用されたのかって
いうところは、検証しないと何か勿体ないかなと思います。

〔每熊アドバイザー〕

過去、これまで何をやってきたかなど、少し簡単にご説明いただいたらどうですか。

〔事務局〕

ちょっと分厚い資料になりますが、一番上が第5期ということで、期が多いので5期以
降でまとめておりますけども、それぞれの報告書から、抜粋させていただいたのがこの資
料となります。第5期の時には「若い世代の行政参加」というテーマで、どういうふう
にして若い方に参加してもらおうのかっていうことをして、29年最後の方には若いとい
うのをもう少し幅広く行政参加をどうしていけばいいかということで、経過の方がここ
に書いてあるようにフリートークやワールドカフェ、ワークショップなどの色々な形でや
ったもので、結果が2ページと3ページにあるんですけども、やはりどうして関心が薄
いのかという、関心が低い、どうすれば参加が増えるのかということで、色々な案を
出していたんですが、確かに、一般にこれがいろんな事業に組み込まれているかとい
う点では、まだきちんと制度に落としきれていないという点はあるかなと思います。

第6期の時は、UターンIターンしたくなる境港をどうすればいいかということで、こ
れもどちらかと言えば行政課題とかそういうまちの課題についてという部分ではあり
ました。3つの柱ということで、課題や資源とか、2番目には移住専門のコーディネ
ーターや移住者を中心とした組織、3番目に交通整理を含めた柱がありますが、この
中で例えば、2番目の移住者専門コーディネーターが市の方に今、そういう専門の
職員がいるので一部はなっているところではありますけれども、ただ正直、この提
言を元にとりより先ほど每熊先生がおっしゃられたように、市の方で当然、空き家
問題とか人口減少とかも、うちも含めているいろんな部署でやる中で、やっぱり
そういう人もいるんだということで、結果として提言に近いことは、この他のもの
にもあり、結果としていくつかはあるんですけどというような表現になってまいり
ます。

第7期も同じように、住み続けたいくなるまちづくりということでいろいろとご意見
もいただいておりますね、デジタル技術を生かして情報発信してはどうかとか、教
育環境の整備っていうのもあるんですが、デジタル技術の活用という意味では、境
港市はまだ、率直に言

って遅れている部分がありまして、今ようやく1階の窓口もデジタル改革が今年始まったところなんです。5番目の教育環境の整備についても、いろいろと教育委員会では取り組んでいるつもりではあるんですが、ただこれもキーワードにあるようなものと言うと大学の誘致などもなかなか難しいところがある中でいうと、たまたま市の担当部署が考えてやったことでここにあるものというのがありますけど、提言を踏まえてということがなかなかちよっとできていない状況です。

第8期はまだ記憶が新しい方も多いかと思います。好きなことや得意なことを生かしてということで、ワークショップまでして意見が出たんですが、個々に出たアイデアというよりは好きなことをどういうふうに生かしていくかというのは、そういう意味では前回試みでは色々やったんですが、きちっとその仕組みを落とし込むというところはまだできていないという形で、これがこう繋がっていますというのを具体的に説明するような仕組みにはなかなかできてないというのが正直なところなんです。先ほどちょっと説明しましたが、条例は議会にかけるという意味ではハードルが高いんですが、仮にこのテーマになった時に、条文の硬い用語をどうこうっていうのを見ていただくというよりは、今書いてある市民の範囲ってこれで合っているのかなっていうようなことなどを考えていただくのかなと思います。例えば、当時、子供も外国人も皆含みますってなっていましたけど、それが良いかですとか、住民参加の方法とかでこちらの市報に載せたり、公民館に資料を送るっていう情報発信のやり方をもうちょっと変えたほうがいいんじゃないかっていうアイデアを出していただいて、それを入れ込む作業はこちらや専門の方がやりますので、率直にここに書いてあるものを実現する手段がいかどうかという視点で見ていただくということで、条例の方はやりたいと思いますし、補助金の方も実際に審査をしていただく中で、気づいた点とか先ほどの意見なども踏まえて、要項とかの細かい文言を変えるというよりは方向性などを議論いただいて、その方向性をもとに実際に直す作業自体は、事務局などでやらせていただきますので、そういう意味での難しさという部分はあまりご心配いただくなくて、全体として、「みんな」というキーワードがずっと出ていますけど、それを実現するための方法を先ほどの3番のところも含めて、進めていただければと思っております。

〔松田委員〕

5期の「若い世代の行政参加」が私なんですけど、ずっと関わらせていただいていたんですけど、6期以降のところだと、やっぱりまちづくりや市の課題に目が向けられているなって思って、今パッと思いついたんですけど、より多くの方がまちづくりに関わるためには、何ができるのかっていうのをテーマに考えるのはどうですかね。

〔吉田委員〕

それが先期のイベントとか、好きなことで集まってみるっていうあれだったと思います。それでより多くの人をっていう流れで、結局途中で終わっちゃったんですけど。

〔松田委員〕

8期のちょっと残念というか、やり残したなっていうのは、やっぱり仕組みに落とせて

いないというところがあって、その仕組みを落としてなんぼだと思うので、そこをちょっとこうすればいいんじゃないとか具体的に実行に移せるような何かを考えたいと思いました。例えば、私好きなんだけど、何かいいとこないかなみたいな感じでくすぶってたりするじゃないですか。そしたら、何か引き込んでくだされば、じゃあ参加してみようかなってまちづくりに参加する人が1人増えるみたいな仕組みでも良いのかなと思います。

〔安原委員〕

そうですね。こんなことやるんだけどどうかなって言うと、結構私やるって人が集まってきた、何気にそれをやるのが得意な人が結構出てきます。だから、私は楽器を演奏する、ひとりは保育士さんで手遊びとか子供向けのことを、もう1人はピアノが得意、もう1人読み聞かせは私に任せてとか、そういう人が何かわからないけど何となく集まってきた、じゃあこれって何か子供向けのイベントができるよねっていうところもあるし、でもそこで和楽器もできる人がいれば、そこに高齢者の民謡を入れても良いんじゃないとか、私紙芝居やるからコラボしてみようとかだんだん広がっていきます。でも、1回でそれを全部すると、子供が高齢者がってぐちゃぐちゃになってしまうので、何回かに分けてやると良いですよ。子供向けだけど子供って大体親とかおじいちゃんおばあちゃんとかと来て、あと全然会ったこともないのに同じことをやると話もできて、ちょっともう1回やろうよっていう、何かよく分からないけどそれぞれの専門、得意分野が集まってくる、1人じゃできないけどそれぞれができること、私これならできるよっていう人が集まってそれを全部かき集めたらすごいし、それが地域づくり、まちづくりにつながると思います。例えば、車を運転するのが好きな人がいる一方で、買い物とかに行きたいけど足がなくて自分で行くことができない高齢者もいる。それをマッチングしたらいいと、使えるんじゃないかと思いました。

〔毎熊アドバイザー〕

第8期って僕も個人的にもものすごく可能性があるテーマだったと思ってしまして、今の例で言うと足のない高齢者、今まではどちらかという、高齢者のために何かしないといけないって思いの人を集まればって言うんですけど、これはなかなかハードルが高いので、なお好きな人で、ちょっとじゃあ車出してよっていう、その人が高齢者を助けようとか何とか一切思わなくていい。みんなでのハードルがぐっと下がるっていう可能性があったと思うんです。それを第8期は実験的にやられて、多分手応えを感じられて、でも、何もしないとあれで終わるっていう、だからそれをどうするかって話ですよ。

〔吉田委員〕

本当に今期は、その続きでいいんじゃないですかね。それこそ、あと2年準備してやって、前回の失敗でも結果を提言すればいいってような感じだったので、失敗してもその時にやり方を変えて、今度こういうふうにしよかって皆で意見出していったら良いのかなと思います。それこそ、3番が一番回答数も多いですしね。

〔遠藤委員〕

その時問題だったのが、結局誰がやるかっていうのが確かあって、永遠のテーマだと思うんですね。そういう人たちを、育成するワークショップとかっていうのもあるのかもしれないですけど、さっきも話に出たようにすごくいいアイデアとかあったりするんですけど、補助金を申請してまでやろうと思わないっていうところになったりとか、何なら補助金の存在すらも知らない人が多いし、境港市がこうみんなでこういうことやって欲しいと思っているのも知らないかもしれないってなったら、やっぱり何かしらの仕組みの見直しとか、その仕組みの整備も大事かもしれません。多分本当にやろうと思ったらここだけでは無理で、市役所の方がちょっと大変なのかもしれないんですけど、適する部署にちゃんと申し送りとかお願いとか協力とかっていうのができないと難しいかなって思います。せっかくこの場でやるなら、こちらのアクションとして働きかけていくっていうことも、さっき松田委員が言われた、より多くの人まちづくりに参加するっていうことにつながるのかなと思いますし、まだそのアクションをどうしたらいいのかなってなっているんだっただけでできるところからやって、これだけやってこの成果がありましたみたいなのは、やっぱり見えた方が、市民も参加すると思うんですね。その方がまちづくりって面白いのかなとか、委員になりたいっていう人も出てくるかと思えますし、それらを全部含めてのより多くの人まちづくりに参加するにはっていうテーマなのかなって思いました。

〔松田委員〕

今思い出したんですけど、先月ぐらいかな、公民館からあなたは地域のためにどういうことが手伝えますかっていうアンケートが来たんですよ。なんか、朝の立ち番だとか色々書いてあって、私はスキーしか興味がなかったんで、スキー教室なら行きますよって書いたんですよ。まあそれだけかって言われたんですけど。要するになんかこれのアウトプットなのかなとその時思ったのを今ふと思い出して、その公民館が市のそういったアンケートとかを調査しているのかなと思ったんですよ。そういったところが色々な地区を超えて、人を集めるとかをしてるのかなと思いました。

〔吉田委員〕

それこそ、前回アンケートを取ったやつで回答したけど、結局どうなったんだろうと思っていると思うので、その辺のフォローも今回できるんじゃないかなと思います。このメンバーでまずやってみて、どこが駄目だったかという感じでやればいいのかっていう気もしますね。手探りでやりながら、これが必要だとか、これは要らなかったとか色々わかってくるでしょうから、それがこの会の趣旨として合っているかどうかはわからないですけど、やってみたら面白いかなと思います。

〔足立委員〕

私が色々な活動をしてみて一番心配なのは、先ほどからお話に出てるように人がなかなか集まらないということが問題ではないかと思っています。直接まちづくりとは関係ないかもしれませんが、1つ例を挙げて申し上げますと、毎年5月に市民運動会あるんですね。コロナの関係もあって、ここ何年かは中止のときもあったし、最近1~2年では、午

前中で終わりっていうのがあるんです。皆さんご存じかどうかあれですが、私たちの子供の頃っていうのは、子供たちが運動会そのものより、昼ご飯を友達と一緒に食べて、おじいちゃんおばあちゃんが来て、おにぎりなんかを変えっこして、それが楽しみの1つで運動会が盛り上がるというね、競技はもちろんのこと、そういうことがだんだん少なくなってきました。私は余子地区ですけど、事例を申し上げますと、一昨年も午前中やって、もちろんお父さんお母さんは何人か来ておられたけども、おじいさんは0人で、おばあさんは3人来ていました。今年の場合は、おじいさんおばあさん、ほとんど姿が見えませんでした。じゃあどうやって人集めをするのかっていうことになってくると、自治会がもっと働きかけて、人集めをするっていうのも1つの方法だし、私たちは先ほど申し上げましたように公民館の役員をしていますので、役割上出ないといけないけども、どうやったら大人が集まるかっていうことは、将来的にも、今度は自治会や公民館の役員になっていただいてまちづくりに参加してもらおうということですね。なかなか年代的に65歳から70歳とかもう仕事を辞められた方に、あまり来ていただけないような雰囲気にはなっていて、これは余子地区だけのことではなくて他の地域も多分そうじゃないかっていう気がします。今いろんな活動をしていて、これから先どうやって人集めをしようかっていうことも関連して、この間も5月31日の市長と語る会で、他の問題について一言しゃべらせていただいたんですけど、あまりきっちりした答えがなくて、それがちょっと今一番の課題ですね。何をやるにしても、どういう手段で人を集めるかっていうところだと思います。

〔吉田委員〕

今回、その好きなことで、みんなが集まれるかどうかっていう実証をしてみて、どうなるかっていうことになるんじゃないんでしょうかね。運動会なんかはもう自治体がかっちり毎回集まってやりますからね。そういうことは別に、そういう好き同士で集まったらどうなるかっていう実験も面白いんじゃないかと思います。

〔松田委員〕

みんながまちづくりに関わるために、条例や補助金の要綱にどんな不備があるか、みんなが自分の好きなことを集まって何かやる仕組みがないにしても、補助金にこだわらず、好きなことをやって好きな人同士が集まることにこだわらず、いろんなやり方があるような気がします。得意なことを持っている人同士が集まるっていう、そこにこだわるのもいいんですけど、それだけにこだわらず、より多くの人に関わっていけるような広く視野を持って考えてみるのも良いのかなと、今の足立さんのお話を聞いて思いました。

例えば仮に実践してみて、失敗することもあるかもしれませんが、そういったところで、最終的にこうやってみたら上手くいったので、市長どうでしょうみたいな提言ができたなら良いかなと思いました。ただ、広く言い過ぎちゃいましたかね。

〔会長〕

買い物難民は、今取り組み中でしたよね。予約して乗れるようになるんでしたかね。

〔吉田委員〕

逆に、先ほどの話で、行政がやらないところで何かって感じですよ。

[每熊アドバイザー]

今、松田さんがおっしゃったのは、ある意味、地域の担い手不足問題ですよ。いろんなところに、地域に関わる人が来なくなって少なくなってしまふ。おっしゃったような運動会だったり、自治会だったり、そういういろんなレベルで地域に関わる人が減ってきているので、それをどうクリアして解決していけばいいかみたいな問題提起ですよ。確かに広いですけど、とっても大事な問題ですよ。

[松田委員]

今私の中では、いろんな人に補助金の申請を出して欲しいなっていう思いがまずあるので、ずっとそれが軸になっています。

[遠藤委員]

補助金を出す人って、すごく貴重な自分がやろうっていう人だと思うんですよ。幅広い人が出してくださったら、色々な人に結びつくと思うので、応募者を増やすのも結構いいかもしれないと思いました。

[每熊アドバイザー]

僕が審査で関わっている島根県の関係の補助金で、一番応募が多いのが何かって言うと、金融機関のろうきんが寄付システムを設けて、これ1口たった5万円なんです。ただ、基本的には何に使ってもいい。報告もちょっと簡単な写真作ってお礼メッセージみたいなのを付けばいいと。だからNPOとかめっちゃくちゃ応募してくるんですよ。ものすごく使い勝手が良くて評判も良いです。可能性として言うと、全部5万円でも何に使ってもいいってやれば、多分、ぐっと増えると思います。

[安原委員]

それなら使うかもしれませんね。

[每熊アドバイザー]

遠藤さんのお話を聞いて面白いなと思ったのは、5万でも何でもいいよで終わるとばらまきだけど、それが広がると、なんかこうかけ合わせるような場をつくれば、案外もう少しバージョンアップした何かができるんじゃないかっていうことですよ。それは面白いかと思います。

[安原委員]

色々な人たちが繋がって大きく1ヶ所でやると、それを見た人は一緒にコラボしようとか、また一緒にやろうとか、どんどん色々なところで繋がっていきますよね。

[每熊アドバイザー]

ある補助金とかだと、どこかの団体と一緒に申請してってというような条件にしている補助金があるらしいです。そうすると、出すたびに広がっていくので。例えば、補助金の仕組みにそういうのを入れるっていうのもあるかもしれませんが、そうするとまた狭まるかもしれません。補助金1つとっても、いろんな組み合わせとか、可能性があるんじゃないですかね。

[会長]

そろそろ、絞っていかなきゃいけませんね。

[吉田委員]

内容については、方針がそれでいくって決まったら、そこから話し合えばいいんじゃないですかね。

[每熊アドバイザー]

今補助金を受けられた団体さんって、そのあとの義務とかって何かありますか。

[事務局]

毎年度、実績報告は出させていただいてまして、補助を受けてどういう感想だったかというのを書いていただいたりしています。

[每熊アドバイザー]

その団体さんたちが集まるような場とかはないですよ。なんかそういうのを組み合わせてもいかなって気がちょっとしました。ちなみに松江でですね、まちづくりに関して大きなイベントを年2回やってまして、1つは、まちづくりを考える日っていうのがあって、半年後ぐらいにまちづくりに繋がる日っていうのを半日ぐらいやるんですよ。何をやっているかという、まちづくりを考える日は、いろんな取り組みを市内で行っている町内会やNPO、ボランティアなど、いろんなところが来てみんなの前で発表するわけですね。それをいろんな人が聞いて、何か参考になるものあれば、持って帰ってもらうということをまずやります。

冬にある繋がる日っていうのは、その人たちと限ってはいないんですけど、結構そこに出てきたような団体さんがいくつか出てこられて、それでその団体の課題みたいなものを、みんなの前で発表して、集まった人たちがグループに分かれて、いろんな助言をしたい、今度自分こういう協力できますよみたいなのを、各団体のプロジェクトをバージョンアップさせるみたいなことをやっています。例えばそういうことを、この補助金とかに抱き合わせにしてやると、今ただお金を渡されているのが少し次のステップになるかもしれない。考えようによってはもっといい仕組みができるかもしれません。そういうのを考えていくのも面白いかなという気がしました。

[遠藤委員]

そのまちづくりの日とかを考えるのは、どこが主導してされているんですか。

〔每熊アドバイザー〕

主導しているのは、市の担当課があるんですけど、担当課が市民の会みたいな実行委員会をつくって、NPOの人だったり、公民館の人だったり、そこがほとんどボランティアで企画をしてやっていますね。だからここでやるとしたら、そういうイベントをここがやるようなイメージかもしれません。

〔吉田委員〕

この補助金の申請団体は皆さん我が強い方が多いですよ。集まってもあまり上手くいくようなイメージじゃないですけどね、個人的な意見ですけど。

〔宮本委員〕

私、今期から参加させていただいているので、今までの取り組みとか、こういう報告書とか皆さんのお話とかでしか伺っていないんですけども、補助金で、昨年度なんかいろいろな団体にお金を出して、それぞれの団体さんがいろいろな良い取り組みをされているというのは良く分かりました。最終的にこういう報告書、紙とPDFだけ量産されてしまって、その後の発展にあんまり繋がってないなっていうところは、色々な方のお話を聞いて感じました。そういう意味では、今までの5～8期、それ以前もあると思いますが、報告書を市に出されて、それに対して何かフィードバックがあると良いのかなと思います。今年はこちらには取り組んだけど、これはまだ未着手だとか、これはどう頑張っても制度的に無理だとか、何かこうボールが返ってくるような、それに対してこういうことをやっていきますとか、これはちょっと方向性を変えて考えていくというような検討ができるのかなと思いました。

〔每熊アドバイザー〕

大変恐縮な言い方をすると、やっぱり受け取られた市の問題でもあると思いますよ。こちらの提案のレベルもあると思いますけど、全部はできないにしても、その後どうされたかはあると思います。今期は足かせや手かせをはめるような提案が出てくると思います。

〔事務局〕

市民活動については、補助金申請の時などに出た意見のまとめを団体へ返して、それを踏まえてっていうことはしているんですけど、いわゆるキャッチボールしてその後どうなったとか、さらについていうようなところまでは、なかなかできていない状況です。

〔每熊アドバイザー〕

今おっしゃったのは、ここで提案が出たものを市がどれだけやったかみたいなことのチェックリストを作って、これはやった、これは絶対無理みたいなものをちゃんとやってくれっていう話でしたよね。

〔宮本委員〕

そういうのがあった方が、次につながるのかなと思います。多分出しっ放して、それに対して何に取り組んだとか、何を解決したんだってということが、あんまり見えてこないなと思いました。

〔三原委員〕

最後に、やっぱり「みんなで」っていう8期のアンケートを市民の皆さんに答えていただいて、趣味や特技が色々あって、これを分けるのも大変だなと思ったんですけど、この結果を市民の皆さんにアンケートを実施してこれだけ答えていただきましたっていうので出してみたら良いのかなと思います。同じような年代でまとめて、皆さんに一度集まりませんかという感じで集まっていたら、またそこで広がるのかなと思います。

〔吉田委員〕

何もないところで集まれてって言われても多分、難しいですよ。何かある程度、決めておかないと集まりにくいような気がしますので、そこも決めてからそういうことをするのはいいんじゃないでしょうか。

〔遠藤委員〕

市の方が全然ここが発信ではないけど、例えば、今空き家問題は境港市も取り組んでいる問題なので、これに関しては今こういうふうにしてほしいという回答があるっていうのは、全然そうじゃないにしても、何かこういうまちづくりの会と境港市が一緒に頑張っていますっていう感じに見えると思うんですけど、それも多分集まった方への、せっかく出してくれた意見への返答として、私たちは実際問題、何かイベントをする以外には手を出せないというか、なので全然他部署とか、全然ここが発信じゃなくても、そういう回答があるっていうのは私たちだけじゃなくて、そういう集まる時にも大事かなと思います。なんかワークショップされた時に、教育長さんが今これをこうやっていますみたいなことは言っておられたと思うんですけど、何もないところにはなかなか人が集まらないので、そういうのがあれば余計に良いのかなと思いました。

〔事務局〕

そういう意味では、市長と語る会というのは毎年やらせていただいています、市の方から色々な行政課題とか、市の考えていることはこういうものですよというのを、市長が説明をするというものです。本当はそういう点も含めて、今やってはいるんですが、ちょっと「みんなで」という風にはなりきれてないところです。もう1回その辺も含めて、今回そのテーマでやるとなったときには、例えばこちらの方から市がこういうことをやっていますというのを見ていただければ、こういうのあるんだったらもうちょっとこうすればいいのっていう意見もいただいたりとか、変わってくるころはあるかと思います。

〔毎熊アドバイザー〕

アンケートの問1の①の条例の点検みたいな話で言うと、今のお話は市長と語る会というのをやっています、と言えはそうかもしれないけど、そういう類のものが、今は境港市

にはどれぐらいあって、おっしゃったようにどれぐらい市民が参加していて、パブリックコメントとかやってもこれぐらいしか回答がなくて、みたいなものを見るのが一番ですね。ここで言う①でやっぱり不十分じゃないかっていう話になると、条例を変えようとか、条例を変えないにしても、語る会をちょっともう少しバージョンアップしようじゃないかみたいな提案をまとめるっていうのが、これも①の方向だと思うんですね。それも大事なことだと思うんですけど、やっていてあんまり面白くはないかもしれません。

〔池淵委員〕

8期でとったアンケートについてなんですけど、市側が行政課題を提示して、その形で、もう一度こういうアンケートを取るっていう形もあるのかなと思います。インターネットとかのアンケートの強みとして、やっぱり若い人とか、そういう幅広い年代から回答っていうのがありますので、それに加えて市側が課題を提案することで、ある程度回答の方向性を固めるといったことが可能になると、個人的には思いました。

〔吉田委員〕

話は戻るんですけども、市長と語る会はちゃんと回覧版でも案内が来ていますし、簡単に参加しやすい環境ではあるけども、大体メンバー的にはほとんど同じですね。多分そこまで興味を持っていないっていうところとか、言っても無駄っていうことがあるかもしれないですね。

〔足立委員〕

確かに一般の人の参加って少ないです。この間、余子公民館で市長と語る会がありまして、50人ぐらいいましたけど、3分の1強が市の職員でした。私はここ10年くらい、市民と議会と市長と語る会には、ほとんど毎年出ています。質問に対して、はっきりした答えが返ってこないっていうのが、ちょっと歯がゆいところです。具体的に申しますと、私も終始一貫して、子供のことだけをずっと質問しているんですけど、まだなかなかはっきりした答えが出てこないというところです。

〔会長〕

そろそろ時間も迫ってきましたので、1つか2つくらいに絞っていききたいところですが、いかがでしょうか。これまでの協議でだいたい③と②くらいに絞られてきているかと思いますが、①も少し含むかもしれませんね。

〔毎熊アドバイザー〕

会長さんと同じことかわからないですけど、皆さんがおっしゃった、「より多くの人にまちづくりに関わってもらうためには」みたいなのが大きなテーマとしてあると思うんですね。もうこの会議全体が元々そうかもしれないですが、明確にそれを今回のテーマに打ち出すというのが多分あって、その中で1つは、8期で目指した「自分の好きなこと得意なことからアプローチする」ということをもう少し深めてみようという1つの方向と、もう1つは補助金をいじって、その補助金でも何かもっと関わってもらう、補助金を通じ

でもっと可能性を広げていくような方向という、2つのサブテーマで、今日何となく議論された感じがあるので、大きいけど一旦そっちでやってみて、補助金は結構テクニカルな部分も多いので、事務局さんにも、何かここが問題だとか論点とかを整理してもらえば、議論しやすくなると思いますし、さっきの8期で言うと、イベントや前回の報告的なこともやりつつ、例えば最終的には仕組みに落とし込んでいくような仕掛けを、1年半ありますから、案外いけるんじゃないかなって感じがします。

必要に応じて過去の提案みたいなのを、もう少しこう生かしていこうじゃないかっていうのも、議論の中に入れ込んでいけるんじゃないかと思うので、ひとまず8期と補助金ということで、何かスタートしたらどうですかね。

[会長]

委員の皆さん、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

・・・委員異議なし・・・

[会長]

ひとまず、テーマの方向性が決まったということで、事務局の方で整理していただければと思います。

それでは、以上で協議を終了します。その他、事務局から何かありますでしょうか。

3 その他

[事務局]

次回の会議について、既にご案内しておりますが、8月7日18時30分より、保健相談センターの講堂にて市民活動推進補助金の審査会を開催いたします。審査表の提出期限を明日までとさせていただきますので、ご提出がまだの方はよろしくお願いいたします。

また、次回の審査会は新規が1件ですので、終わった後に今日の協議内容を整理させていただいて、こういう話でしたというような確認ができればと思っております。その後、今後の補助金の申請状況にもよりますが、9月下旬から10月中旬にかけて、もう少しテーマについてしっかり協議するというのを今後の流れとしては考えておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

4 閉会

[会長]

それでは、以上をもちまして、第3回みんなでまちづくり推進会議を終了します。

委員の皆様、長時間にわたってご協議いただき、ありがとうございました。

<終了>